

県立美術館は  
30年かけて創り上げた県民の財産。  
気軽に足を運び、  
思い思いのスタイルで  
美術館を楽しんでください。

山梨県立美術館館長  
白石 和己さん



山梨県立美術館が設立された当時、美術館を有する都道府県はほんの少数でした。その県立美術館がミレーの世界的名画を購入したというニュースは非常に衝撃的で、羨望を持って受け止めたことを覚えています。その後、多くの県が次々と美術館を設立しましたが、そのきっかけを作ったのは間違いなく「山梨県立美術館の成功」であり、当館は日本の美術館の歴史に刻まれる大きな存在であると言えるでしょう。初期の段階でミレー&バルビゾン派の方向性をしっかりと定めたことがよかったと思います。ミレーの「種をまく人」や「落ち穂拾い、夏」に代表される所蔵名画もさることながら、日常的に活動している多くのボランティアやドーセント(絵画の解説員)の皆さんの存在、そして何よりも県立美術館を愛し、誇りにしてきた県民一人ひとりの気持ちが、当館の大きな財産となっています。

当館では、開館30周年を記念し、ミレーの初期の秀作である「眠れるお針子」を含むバルビゾン派の作品4点を新たに購入し、来る1月6日にはミレー館をオープンする運びとなりました。

また、特別展や常設展の他にも、各種ワークショップや講演会、ミニコンサートなど、さまざまな催しも企画しております。小さなお子さんからお年寄りまで、ぜひお気軽に足を運び、よりいっそう親しんでいたいただければと思います。

今年、開館30周年記念イベントが目白押し。年間、30万人の来館者が訪れる県立美術館。今年4月には、緑豊かな芸術の森公園に、「ビッグ・アップル」が設置され話題を呼びました。また、5つの特別展が4月から開催されています。12月21日まで開催される「県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」は、その第4弾。昨年実施したアンケートを元に人気の収蔵作品を展示しています。会場には、30年の歩みを振り返ることができる開館当時の懐かしい映像や新聞、写真などもありそろえています。開館30周年を迎え、ますます魅力ある美術館へと成長し続ける山梨県立美術館を皆さん、ぜひお楽しみください。



ザ ビッグ・アップル No.45      ワークショップ「新みなび」      ロビーコンサート

新たに購入されるバルビゾン派の作品



ジュール・ブルトン 〈朝〉

1888年 油彩・麻布 101.6×76.2cm

ミレーの描いた「農民画」というテーマは、その後の画家たちにも大いに影響を与えました。その影響を受けた者としては、印象派のような前衛的な画家のみならず、保守的でアカデミックな画家たちも多数あげられます。こうしたアカデミックな画家たちは、農民の姿をより理想化した姿で描きました。ジュール・ブルトンは、ミレーから影響を受けて「農民画」を描いたそんな画家のひとりです。本作品では、農民の少女が朝の光を浴びながら仕事に出かける場面をあらわしています。「仕事に出かける人」という画題は、ミレーも好んで描いたものであり、二人の画家の共通点がかがえます。



ジュール・デュプレ 〈海景〉

1870年 油彩・麻布 51×63.5cm

県立美術館には、ジュール・デュプレの作品を2点所蔵していますが、《森の中一夏の朝》(1840年頃)、《森はずれの小川》(1860年頃)のいずれも森を題材としています。しかし、晩年のデュプレは海景画を多く手がけていることで知られています。本作品はデュプレ晩年の海景画であり、この画家の生涯をたどる上で重要な作品です。



アンリ=ジョセフ・アルピニー 〈陽のあたる道〉

1875年 油彩・麻布 49.3×76.2cm

クールベやバルビゾン派の画家、そしてとりわけコローを崇拝していたアルピニーも、バルビゾン派の画家のひとりです。アルピニーは、1854年頃からバルビゾンに滞在して、フォンテーヌブローの森を描くようになりました。本作品は光と影がくっきりとした明るい画面となっており、この点は1830年代、40年代のコロー作品とも共通します。



開館30周年を迎える  
「県立美術館」は、  
さらにグレードアップ

来年1月6日「ミレー館」をオープン!



ミレーやバルビゾン派の作品が充実した「ミレー館」

ミレーの美術館として知られる山梨県立美術館は、今年開館30周年。これを記念して、本館2階の常設展示室をリニューアルし、ミレーやバルビゾン派の作品を一堂に集めた「ミレー館」として来年1月6日にオープンします。

新設するミレー館への展示作品の目玉として、新たに、ミレーの「眠れるお針子」をはじめ、バルビゾン派の絵画4作品を購入する予定です。「眠れるお針子」は、ミレーが晩年まで繰り返し描き続けた「お針子」という画題の中の初期の秀作です。今回の購入により、油絵、水彩画、素描、版画を含め約70点のミレーの作品を収蔵することになりました。新しい県立美術館が送ります「ミレーの世界」にご期待ください。

ジャン=フランソワ・ミレー 〈眠れるお針子〉

1844-45年 油彩・麻布 45.7×38.1cm

ミレーが若い頃に多く手がけていた裸婦や可愛い女性を描いた小型の作品は、今まで美術館のコレクションの中含まれていませんでした。本作品は、若い頃のミレーに特徴的な小画面の作品で、家庭内での女性の労働を描いたものです。「お針子」という画題は、ミレーが晩年まで繰り返し描き続けています。

ださ。

農業県ー山梨に「ミレーの美術館」が

置県百周年記念事業の一環として昭和53年11月3日に開館した県立美術館は、県の農業試験場(現在の総合農業技術センター)跡地に建てられました。昭和47年に建設が決定すると、コレクションの中心を農業県ー山梨の風土と調和するバルビゾン派の作品とする方針を固め、世界的に有名なJ.F.ミレーの代表作「種をまく人」「夕暮れに羊を連れ帰る羊飼いの」2作品を購入しました。

素朴な農民生活を描いたミレーの絵画。山梨の農業を支えてきた農業試験場の跡地にミレーの作品が飾られたことで、山梨の農業の息吹をミレーの作品から感じとった人もいたのではないのでしょうか。



甲府に到着したJ=F・ミレーの代表作「種をまく人」



開館初日は来館者で長蛇の列となった

オープン当日は、徹夜で並んだ高校生一人を先頭に、日本中から世界的名画を観ようと多くの人が来館し、華々しい幕開けとなりました。

県内の芸術振興に向けて 県立美術館には、望月春江や川崎小虎ら本県出身者や本県にゆかりの深い画家の優れた作品も数多く寄贈され展示しています。

また、子ども達のワークショップ、シルバートレクチャー、ロビーコンサートなど、誰もが気軽に美術館を訪れ、芸術に親しみ、参加できる企画を展開しています。県内各地で行われるワークショップ「新みなび」は、毎年たくさんの笑顔と出会いをもたらしてくれました。

今後、県内の美術館同士での連携を強化し、本県の芸術振興に向けて、さまざまな活動を行っていきます。

これからの開館30周年記念事業



- 特別展「県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」～12月21日(日)
- 県内作家40名による「アート&クラフト市」10月18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日) 午前9:30～午後4:30 「芸術の森公園」内特設会場
- 特別講演会「山梨の自然と文化と私」(仮題) 11月3日(月・祝) 午後2:00～ NHKアナウンサー 国井雅比古氏(山梨県出身) 会場:山梨県立文学館講堂 無料
- 特別展「山梨に眠る秘蔵の日本美術展」平成21年2月7日(土)～3月29日(日)

山梨県立美術館 〒400-0065 甲府市真川1-4-27  
Tel.055-228-3322 Fax.055-228-3324  
開館時間 午前9:00～午後5:00(入館は午後4:30まで)